

科目名	分子毒性学特論	選択	1単位
-----	---------	----	-----

◎責任教員

担当教員	◎教授 鈴木 俊英 准教授 北 加代子、講師 本間 太郎						
開講年度	2022年度	配当年次	1～4年	配当学期	前期	授業方法	講義、セミナー

授業の概要	分子毒性学の目指すところは、薬毒物の有害作用発現メカニズムを分子レベルで解明し、危険度や安全性を評価するとともに、予防や治療における指針を得ることにある。本講義では、薬毒物の諸毒作用、毒性標的との相互作用、生体応答性そして臨床現場への応用例などについて体系的に、且つ実際に行われた研究の紹介を交えて解説を行う。その後、自分の行っている研究と関連がある毒性学分野の研究論文を読み解き発表を行い、プレゼンテーション能力およびディスカッション能力を養成する。
授業の到達目標	①薬毒物の諸毒作用、毒性標的との相互作用、生体応答性、臨床現場への応用について概説できる。 ②分野を超えて広い視野を持って研究を遂行する能力を獲得する。 ③最先端の研究結果について解釈し討論する能力を獲得する。

授業計画	回数	担当者	行動目標
	1	鈴木 俊英 教授	薬毒物による遺伝子発現系への影響について説明できる。
	2	北 加代子 准教授	細胞周期の制御メカニズムとそれに及ぼす薬毒物の影響について説明できる。
	3	本間 太郎 講師	活性酸素、フリーラジカルの生体毒性と臨床応用について概説できる。
	4	鈴木 俊英 教授	薬毒物によるシグナル伝達系への影響について説明できる。
	5	鈴木 俊英 教授	自分の行っている研究と関連のある毒性学分野の学術論文を読み解き、自分の研究と関連づけてプレゼンテーションできる。
	6	鈴木 俊英 教授	自分の行っている研究と関連のある毒性学分野の学術論文を読み解き、自分の研究と関連づけてプレゼンテーションできる。
	7	北 加代子 准教授	自分の行っている研究と関連のある毒性学分野の学術論文を読み解き、自分の研究と関連づけてプレゼンテーションできる。
	8	本間 太郎 講師	自分の行っている研究と関連のある毒性学分野の学術論文を読み解き、自分の研究と関連づけてプレゼンテーションできる。

事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	・授業中の疑問点をまとめ、次回の授業までに解決しておくこと。 ・提示された毒性学関連のキーワードと自分の研究を関連づけて学術論文を検索し、読み解き、プレゼンテーション資料を作成する。 ・前回の授業内容（プリント等）を復習し、用語の意味等を理解しておくこと。 ・当該期間に30時間程度の予復習が必要となる。
教科書	特になし
参考書	特になし、プリントを随時配布する
成績評価の方法および基準	文献紹介レポート50%、プレゼンテーション50% で評価する。
その他履修上の注意事項	文献紹介レポート、プレゼンテーションに対し、講義中に解説等のフィードバックを行う。 この科目と学位授与方針との関連をカリキュラムマップを参照し理解すること。